土　木　学　会　名　誉

工学博士　鈴木雅次君

鈴木雅次君は大正3年九州帝国大学工科大学土木工学科を卒業後，ただちに内務省に入り昭和 20 年4月内務技監を退官までの主なる官職は，大正6年内務技師，大正 11 年鉄道技師を兼任，内務省土木局技術課長，東京土木出張所長を歴任され業務は港湾，河川，砂防，水力発電，上下水道を主として担当せられました。

昭和 2 年工学博士となり，昭和5年日本大学教授を兼任，内務技監退官以後 21 年 10 月から教授を本務として現在まで港湾工学と土木行政の講座を担任し，そのかたわら内閣，建設，通産，運輸各省の建設関係審議会委員を始め，電力会社，日本道路公団，都および各県の顧問として寧日なき活動を続けられております。

海外には在官中大正9年4月から10年12月まで欧米各国へ，さらに昭和 32 年8月中近東諸国へ建設技術海外進出を研究のため出張せられました。土木学会においては編集，水理公式集各委員を歴任，昭和9，10 年常議員，17,18 年副会長，19 年第 32 代会長として多大の尽力をせられ，現在も土木史編集委員長，海岸工学委員会顧問をしておられます。

以上のとおり斯界のため貢献せられている功績がまことに顕著でありますので，ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

工学博士　吉田徳次郎君

吉田徳次郎君は明治 45 年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後，ただちに九州帝国大学へ赴任し，大正8年から2年間欧米へ留学して，コンクリートを研究し，大正 13 年九州帝国大学教授となり，昭和 13 年に東京帝国大学教授に転じ，昭和 24 年に退官されるまで 37 年の永きにわたりコンクリート工学の研究に専念され，講義，60 編の論文および4冊の名著を通じて同工学の進歩発達に貢献された大功労者であります。昭和 25 年には九州大学名誉教授，日本学士院会員となられ，現在もかくしやくとしてダム工事，プレストレスト　コンクリート工事等各種の工事を指導しておられます。また，日本代表として，昭和 26 年にはニューデリーの第4回世界大ダム会議へ参列され，昭和 33 年にはニューヨークの第6回世界大ダム会議へ出席され論題第 21 の総括報告を行われました。土木学会にあつては各種委員会委員，特にコンクリート常置委員会の委員または委員長として昭和6年以来コンクリート標準示方書の制定その他に多大の貢献をせられ，昭和 17 年には副会長，昭和 24 年には第 37 代会長として尽力せられたのであります。

以上のように斯界のために貢献せられている功績がまことに顕著でありますので，ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

工学士　平山復二郎君

平山復二郎君は明治 45 年東京帝国大学工科大学土木工学科卒業後，ただちに鉄道院建設部勤務を振出しに，大正2年房総線建設事務所，8年鉄道省工務局に勤務，9年6月より 11 年 11 月まで米，英，スイスに留学し帰朝後，12 年4月鉄道省講習所講師，同年 11 月帝都復興院技師を兼務，13 年復興局土木部道路課長，15 年同工務課長を兼務，越えて昭和4年鉄道省岡山建設事務所長，6年4月米子建設事務所長兼務，同年 12 月熱海建設事務所長に転じ，9年8月建設局工事課長，11 年7月仙台鉄道局長，12 年7月鉄道省建設局長の要職につかれました。昭和13年2月南満洲鉄道株式会社理事となり，17 年9月満洲電気化学工業株式会社理事長，20 年6月満洲電業株式会社理事長として終戦まで現地に活躍されました。現在は昭和 27 年3月以来ピー・エス・コンクリート株式会社社長として，また29年2月パシフィック　コンサルタンツ株式会社社長として第一線に活動されております。土木学会においては昭和11年常議員，昭和13年副会長，昭和31年第44代会長として学会運営に多大の尽力をせられ，現在も土木振興対策委員会委員をしておられます。

以上のとおり斯界のため貢献せられている功績がまことに顕著でありますので，ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

員　推　挙　者　報　告

工学士　黒田武定君

黒田武定君は明治 44 年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業，大正元年鉄道院に就職以来，昭和 16 年退官までの鉄道省における主なる職歴は，名古屋鉄道局改良課長，本省改良課長，東京改良事務所長，官房研究所長をつとめられました。退官後昭和 16 年より 19 年まで帝都高速度交通営団理事技師長，19 年より 20 年まで日本製鉄株式会社顧問，21 年より 28 年まで東京建設工業株式会社社長を歴任され，23 年より財団法人研友社会長，28 年より東京急行電鉄顧問ならびに社団法人信号保安協会会長として活躍されております。鉄道省任官中大正 10 年より 12 年まで欧米各国に留学，主として鉄道橋の研究を修められました。

土木学会においては昭和 8 年に常議員，16 年 17 年の副会長として学会運営に多大の尽力をせられたのであります。

以上のとおり斯界のため貢献せられている功績がまことに顕著でありますので，ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

工学士　堀越清六君

堀越清六君は明治 44 年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後，ただちに鉄道院に入り，大正 6 年技師となり，大正 11 年 6 月より 13 年 9 月まで鉄道事業研究のため欧米に留学されました。13 年 11 月長岡建設事務所長，昭和 2 年岡山建設事務所長，4 年北海道建設事務所長，6 年信濃川電気事務所長，8 年鉄道省建設局計画課長，12年広島鉄道局長を歴任され，13 年 8 月より 15 年 8 月まで鉄道省建設局長の要職におられました。退官後昭和 15 年 12 月株式会社間組取締役に就任，16年 3 月より 24 年 3 月まで常務取締役として活躍，現在は同社顧問となつておられます。

土木学会においては昭和 10 年 11 月常議員，13 年 14 年副会長として学会運営に尽力せられたのであります。

以上のとおり斯界のため貢献せられている功績がまことに顕著でありますので，ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

工学博士　高西敬義君

高西敬義君は明治 40 年京都帝国大学理工科大学土木工学科卒業後，大蔵省に入り，神戸港勤務，同 42 年大蔵省技師，大正 8 年内務技師，昭和 3 年神戸土木出張所長，同 9 年大阪土木出張所長，同 14 年 6 月退官，大正 9 年港湾視察のため 1 カ年余欧米各国へ出張，同年 10 月以降 5 カ年間京都大学土木工学教室で港湾講座を担当されました。昭和 12 年 1 月災害科学研究所常議員をへて昭和 18 年まで北支で活躍されておられます

終戦後は財団法人関西工学理事，港湾委員会臨時委員，大阪市監査委員，桜島埠頭ＫＫ社長等の要職につかれました。

土木学会にあつては，昭和 4，5 年関西支部商議員，昭和 12 年には支部長として支部発展のために多大の尽力をせられたのであります。

以上のとおり斯界のため貢献せられている功績がまことに顕著でありますので，ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。